



(第11期) まつもと子ども未来委員会 市への提言の報告

11月16日(日)に中央公民館Mウイング6階ホールで「過去から未来へ～平和が紡ぐ子どもの権利フォーラム～」が開催され、市への提言を行いました。この日は、委員24人と大学生サポーター7人が参加しました。

1 全体を通して

会全体の一部の総合司会や、「子どもの権利と平和」についてのスライドによる説明、市内見学の発表（委員から提出された市内見学の感想文をもとに作成）、大会宣言や、提言以外にも積極的に関わってくれました。話をする姿は、堂々としていて、本当にかっこよかったです。



また、自分たちが住む松本の過去の出来事や平和について学ぶこともできました。

2 提言の様子

4月から全体で学んできました。8月にグループに分かれて、グループごと意見を出し合いながら話し合いを重ねてきました。その成果をスライドにまとめ、今回、会場に来てくださった約100人の前で発表しました。市への提言という経験が初めての子も多く、リハーサルから緊張している様子が見られました。本番ではそれぞれが堂々と発表することができ、温かい拍手をいただきました。



3 提言と伊佐治副市長、曾根原教育長コメント

副市長、教育長からお言葉をいただきました。

(1) 打ち水グループ

ア 松本の水を知れる博物館の新しい常設展示について
【伊佐治副市長コメント】

今日の発表を聞いて、新しい博物館には、松本の「水」についてみんながよくわか



るような展示があるといいと感じました。博物館の展示はいつも同じだけれど、入口や空いている場所を使って、新しいことを見せる工夫もできるはずです。

私は前に「和食展」という特別な展示を見に行ったとき、松本には井戸がたくさんあって、近い場所でも「硬水」と「軟水」があることを初めて知りました。その展示を見て、松本のことがもっと好きになり、水を大切にしたいと思いました。だから、「知ることが大事にする気持ちにつながる」というみんなの考えに、とても賛成です。

【曾根原教育長コメント】

地面に水をまく「打ち水」をすると、水が蒸発して地面の温度が下がり、まわりの空気もあまり暑くならないので、涼しくなる。ふつうは水道の水を使うけれど、松本にはたくさんのきれいな水が湧き出しているから、その水を使えるのがすごいところだと思う。

松本には、水があふれる特別な地形のひみつや、水の場所によってちがいが出る理由、どうして飲めるほどきれいな水が出るのか、打ち水のしくみなど、展示できるお話をたくさんある。これからそんな展示のアイデアを博物館にも提案していきたい。

イ 楽しみながら触れる水を使ったイベントについて

【伊佐治副市長コメント】

松本のまちには井戸だけでなく、パルコがあった通りに大きな「せせらぎ（水が流れるところ）」があります。ここは町の人たちが掃除して守ってきましたが、町の人が少なくなったりお年寄りが増えたりして、掃除が大変になってきています。そんな中、筑摩小学校やエクセラン高校、通信制高校の子どもたちが、デッキブラシで一生懸命お手伝いしているのを見ました。とてもすてきなことだと思いました。こうした活動と合わせて、みんなで気持ちよくて涼しい水のある環境を作っていくたいと発表を聞いて感じました。

【曾根原教育長コメント】

世界では、水が少なくて取り合いになり、けんかや戦争が起きることもあるくらい、水はとても大事です。そんな中で、松本には水がたくさんあふれていて、本当にすばらしい場所だと思います。だから松本の名前に「水のまち」という意味をつけてもいいのではないかというくらい水がすごいです。

(2) 交通グループ

ア 松本城から駅までの将来的な自動運転バスの運行について

【伊佐治副市長コメント】

今回みんなが「自動運転バス」について考えてくれたことに、まずお礼を言いたいです。自動で走るバスは、これから技術が進めば、きっと松本でもできるようになると思います。みんなが「まずは観光客向けに、松本駅から松本城まで走らせる実験をしてみたらどうか」と考えたところが、とてもよかったです。道も広いし、松本の新

しい良さとしてアピールできるかもしれません。

また、みんなは「信州大学へ行く学生さんが朝とても多いから、その方面的のバスも増やしたほうがいい」と言っていましたが、これもよく見ているなと思いました。朝は学生が長い行列になっていて、みんな大変そうなので、もっとスムーズに乗れる仕組みがあればいいなと私も思っていました。松本城へのルートの次に大事な場所として、^{しんたいほうめん}信大方面を考えたのは、とてもすばらしい考えです。

【曾根原教育長コメント】

とても便利な未来の社会では、自動で走るバスが使われるようになります。今、いろいろな会社がその技術を一生懸命作っていて、近い未来にはきっと実現すると思っています。

イ A I を活用した観光客向け放送導入 ^{ほうそうどうにゅう}について

【伊佐治副市長コメント】

A I を使って昔の有名な人の声をよみがえらせる、という考えは今まであまり思いつかなかったけれど、とてもよいアイデアだと思いました。

【曾根原教育長コメント】

昔の人物の声をA I で作るという考えは、私も思いついたことがなかったけれど、とてもおもしろいと思いました。A I は^{きょうりゅう}恐竜の声も体のつくりから^{よそう}予想して作れるので、人の声を再現するのもワクワクします。それから「抜け穴の伝説」のように、場所の秘密や歴史を先に知っていると、観光に行ったときに「もっとよく見たい！」という気持ちになります。何も知らないで行くと、ただ見て終わってしまいますが、知っていると心に残る観光ができるという話です。

(3) 室内公園

ア 夏でも思いっきり体を動かして遊べる室内公園を作ってほしい

【伊佐治副市長コメント】

市長に手紙を送れるしくみがありますが、そこにも「雨の日でも暑い日でも遊べる場所がほしい」という子どもたちの声がたくさん届いています。長野市には「ながノビ」という、^{かがくかん}科学館をリフォームして作った、思いっきり遊べる遊具がたくさんある施設があります。それを見に行って、松本にもこんな楽しい場所があったらいいなと強く思いました。

イ 室内にある公園で、^{れいぼう}冷房があって夏でも涼しい公園がほしい、家から行きやすい公園が欲しい、アルプス公園は楽しいが松本駅から歩くと一時間かかり、あまり遊びに行けない

【伊佐治副市長コメント】

松本市では、子どもたちが家の近くで遊べる場所がほしいという声があります。

児童館や児童センターはありますが、ほとんどが^{がくどう}学童（放課後に子どもを預かる

場所)でいっぱい、学童に行かない子どもが気軽に遊べる場所はほとんどありません。市はこれまでそのままにしてきたことを子どもたちにおわびしたいと思っています。だから、市長も「みんなが遊べる場所をつくりたい」と言っていて、みんなの意見を大切にして、具体的に提案していきたいと考えています。

【曾根原教育長コメント】

教育委員会として、みんなが使える場所でどんなことができるか、これから一緒に考えていきたいと思っています。

ウ こんな公園があればいい「水の城」。

【伊佐治副市長コメント】

公園で「こんな遊びがあつたらいいな」という話の中で、「水の城」というアイデアがありました。これは松本の水のすてきなところともつながるので、実際に作れたらいいと思っています。

(4) 居場所

ア 自分の家以外で友だち同士で集まる場所がほしい

「話せる部屋」と「静かにする部屋」を区別する

【伊佐治副市長コメント】

未来委員会から「若い人が集まれる場所をもっと作ってほしい」という意見をもらって、少しずつ増やしています。たとえばMウイングの2階には、勉強できる場所や、グループで学べる場所、気軽に話せる場所などを工夫して作りました。でも今は少し狭いので、みんなの声を聞きながら、他の場所でもいろいろなスタイルで楽しめる居場所を増やしていきたいと思っています。若者が集まれる場所のことは、未来委員会や若い人たちと一緒に考えて作っていきたいです。

イ あがたの森でエアコンが設置できなくてもポータブルクーラーを導入してほしい

【曾根原教育長コメント】

あがたの森は大事な文化財なので、簡単に建物を変えたりできません。エアコンをつけたいと思っても、国の許可が必要で簡単にはできません。持ち運びできる小さなクーラーならすぐに使えるので、そういう方法を考えたいと思っています。

ウ あがたの森文化会館では受付が別のところで必要なのでタブレットやQRコードを使ってかんたんに受付できるようにしたい

【曾根原教育長コメント】

受付の手続きが、今はわざわざ行かないとできないのは面倒ですよね。みんなから意見をもらったので、どうやったら便利にできるかをこれから考えていきたいと思います。